

森の“聞き書き甲子園”

代表に大友千尋さん（角館高校）

森に生かされ、生きてきた「森の名手・名人」たちの人生を高校生が「聞き書き」をする「森の“聞き書き甲子園”」。その成果を発表するフォーラムが3月26日、江戸東京博物館で行われ、全国から選ばれた代表5人の中の1人として角館高校2年の大友千尋さん（当時1年生）が参加しました。



大友千尋さん

「聞き書き」で大変だったのは、取材したテープの会話をすべて文字に書きおこすところです。秋田の方言をどう表記したら、名人の言葉を正確に伝えることができるかが大変でした。

聞き書きを通してたくさんの人との出会いがあり、とても楽しかったです。

これは、林野庁や、文部科学省、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会などによる実行委員会が実施し、全国から作文により100人の高校生を選考。「聞き書き」事前研修会（講師・塩野米松氏）参加後、森の名手・名人を訪問しレポートを作成し、その100人の中からさらに5人の代表が選ばれ、フォーラムで発表したものです。

大友さんは、角館中学校での総合学習で塩野米松氏（作家・角館町出身）から「聞き書き」を教わった第1期生になります。

角館高校の教育実践紹介

平成17年度卒業生の進路状況について

この3月に卒業した生徒たちの進路状況についてお知らせします。

進学では国公立大学に延べ人数36名（実人数35名）が合格し、平成12年度以来5年ぶりに30名以上の合格者を出すことができました。その内訳は、推薦入試での合格が、秋田県立大学6名、秋田大学3名、弘前大学1名、札幌市立大学1名の合計11名。一般入試での合格が、弘前大学6名、岩手大学4名、秋田大学4名、秋田県立大学3名、北海道教育大学2名、国際教養大学1名、山形大学1名、福島大学1名の合計25名でした。特に、国際教養大学の一般入試（A日程）は東北大学の文学部や教育学部を上回る難関であり、秋田県内から4名しか合格者が出なかったことから本校にとっては大きな快挙といえます。

また、私立大学には延べ人数76名が合格しました。例年どおり東北地区、関東地区が多く、東北地区では秋田看護福祉大学、東北学院大学、東北福祉大学、東北薬科大学など、また関東地区では法政大学、駒澤大学、東洋大学、国学院大学、東海大学、実践女子大学などです。さらに、短期大学には20名、専修学校・各種学校には53名が進学しました。

次に就職の状況ですが、公務員試験では、年々合格が厳しさを増す中で、これまでも県内トップクラスの実績をあげてきましたが、昨年度は延べ人数26名が合格するというかつてない驚異的な結果を残しました。その内訳は、郵政12名、国家種5名、秋田県職2名、秋田市役所2名で、早朝・昼休み・放課後の補習の積み重ねと外部講師による集中セミナーの成果が出ました。

民間就職では、国全体としては不況から脱して景気が回復し、有効求人倍率は1倍を超えたと報道されましたが、秋田県の県南地区では昨年度よりも求人数が少なく苦戦を強いられました。男子は比較的順調に採用が内定しましたが、女子はなかなか内定がもらえずに難航しました。女子の雇用先が少ないことが要因の1つと考えられます。

学校全体の4人中3人が進学、1人が就職という比率は例年と大きく変わりはありませんが、国公立大学と公務員に多数の合格者が出たことから、本校生徒諸君の進路目標達成にむけた意識の高まりと力をつけるための日々の学習への取り組みが充実してきていることがわかります。毎日の朝学習、土曜学習、長期休業中の補習など職員の指導の努力と工夫、それを支えてくださる保護者の方々のご理解ご協力も相まって、今、角館高校は確実に上昇気流に乗ってきています。

今年度も生徒諸君の成長、活躍をご期待ください。今後とも地域の皆様のご支援を賜りますようお願いいたします。